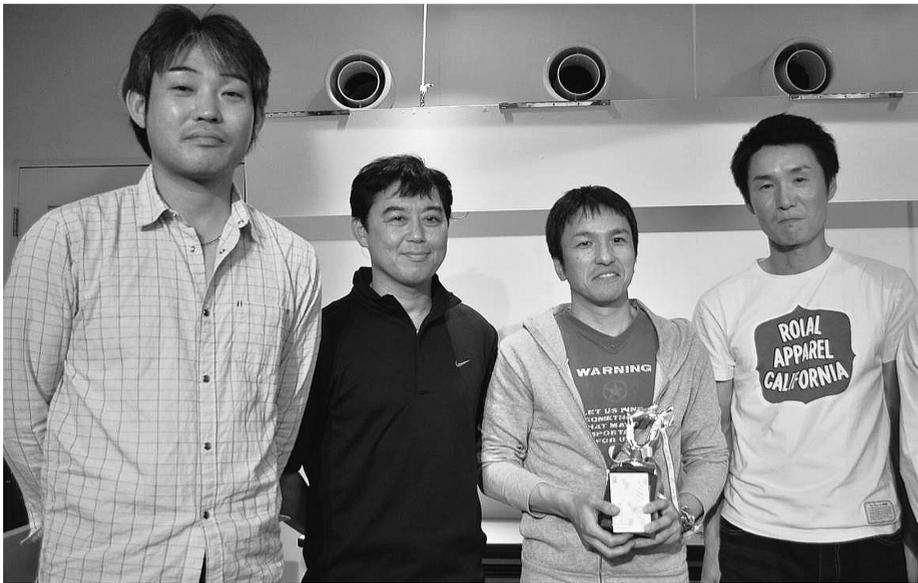


第二地連北支部が圧勝！

第15回東京清掃ボウリング大会



▲圧倒的な強さで優勝した北支部チーム



▲個人優勝の菊地さんと吉田委員長



▲18レーンを使って熱戦が繰り広げられた



▲大いに盛り上がった表彰式



▲江戸川支部は2チームが入賞

個人戦優勝は菊地さん(中野)

5月12日(土)、東京ドームボウリングセンターにおいて、第15回ボウリング大会が開催されました。前回は、東日本大震災の影響により残暑厳しい9月開催でしたが、今回はあらためて春の開催に戻すこととなりました。初夏の爽やかな陽気とはいえ、厳しい職

務を終えてから集まった72名の仲間は、全身に汗をかきながら、2ゲーム合計による熱戦を繰り広げました。見事にチーム戦優勝の栄冠を手にしたのは、第二地連・北支部。他を寄せ付けぬ圧勝劇でした。準優勝は、第五地連江戸川支部A。第三位も同じく江戸川支部

Bとなりました。また、個人戦の優勝は中野支部の菊地さんで、2ゲームの合計スコアは395という素晴らしいものでした。ゲーム終了後は、徒歩でSKホールに移動し、表彰式を兼ねた懇親会を催しました。渴いた喉を潤しながらの成績発表は大いに盛り

上がり、参加者の交流を深めることができました。来年も同時期に開催したいと考えていますが、ボウリング以外のレク活動についての要望やアイデア等をお持ちの方は、教宣部に積極的に意見をあげてください。よろしくお願ひします。



東京清掃労働組合
千代田区飯田橋3-9-3
TEL (3237) 9995
1部20円

編集責任者 長司 幸
教宣部長 斎藤 幸

わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

個人戦

順位	氏名	支部	総得点	アベレージ
1	菊地 順一	中野	395	197
2	福岡 啓治	北	360	180
3	中臣 好夫	多摩事	358	179
4	大田 英明	北	347	173
5	中村 廣志	北	347	173
6	金子 隆	台東	337	168
7	前田 賢雄	江戸川	334	167
8	鹿住 平三	杉並	332	166
9	星野 克彦	北	332	166
10	工藤 俊晴	渋谷	328	164

チーム戦

順位	チーム名	総得点	アベレージ
1	北支部	1386	173
2	江戸川支部A	1187	148
3	江戸川支部B	1174	146
4	第四地連青年部	1172	146
5	台東支部	1145	143



「運転者年齢等調査票」

必ずご提出ください(原付不用)

ご記入いただいた調査票は、期日までに組合へご提出ください。

現在ご加入いただいている自治労共済の自動車共済は、2013年6月発効以降から、ご契約の更新にあわせて全労済マイカー共済への契約移管を予定しています。全労済マイカー共済は、車の種類や運転者年齢等によって掛金が異なる制度となっています。

つきましては、マイカー共済への契約移管時に新たな補償・掛金等をご案内させていただきますので、本年5月よりの継続時に「調査票」の提出をお願いしています。

- 継続/満期月の10日までに本部事務局に届くように！
- 新規・自動車の変更も「調査票」の提出が必要！
- 「申請書」帳票・「自動車共済担当者のてびき」は東京清掃ホームページに！

「調査票」書き方は自治労共済フリーダイヤル

0120-368-335 (正午~20時) 月~金

土 10時~15時

日比谷野音に8,000名が結集

～第83回メーデー～



▲会場を埋め尽くす東京清掃の仲間たち

わが組合は、「闘うメーデー」の歴史と伝統を守り、団結をより強固なものとするため、これまでの取り組みの経緯を踏まえ、連合メーデーと日比谷メーデーに参加してきました。

5月1日に行われた日比谷メーデーは、「働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう！」をメインスローガンに、日比谷野外音楽堂に約8,000名が結集し、盛大に開催されました。全石油昭和シェル労組の柚木康子さんと、わが組合の大和副委員長を議長団に選出し、集会の冒頭、発生から1年を経過した東日本大震災の被害者に対しあらためて黙祷を行

わが組合は、「闘うメーデー」の歴史と伝統を守り、団結をより強固なものとするため、これまでの取り組みの経緯を踏まえ、連合メーデーと日比谷メーデーに参加してきました。

5月1日に行われた日比谷メーデーは、「働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう！」をメインスローガンに、日比谷野外音楽堂に約8,000名が結集し、盛大に開催されました。全石油昭和シェル労組の柚木康子さんと、わが組合の大和副委員長を議長団に選出し、集会の冒頭、発生から1年を経過した東日本大震災の被害者に対しあらためて黙祷を行



▲街にシュプレヒコールが響き渡った



▲青年部が中心となり団結してがんばろう！

人権侵害は許さないぞ

第1回担当者会議

4月24日、SKホールにて、第1回人権啓発推進担当者会議が開催されました。多文化共生・人権ネットワークの市川正廣氏を講師に迎え、「差別と人権を考える」と題し、同和問題の経過や歴史、現在における課題などについて、ビデオを交えながら約2時間に亘り丁寧にお話しいただきました。

部落差別は、長い歴史をもち、日本社会に深く根ざした深刻な人権問題です。1922年の全国水平社創立以降、過酷な差別に長く苦しんできた人たちによって、差別的言動に対する糾弾闘争とともに、被差別部落の劣悪な生活環境

を改善する様々な闘いが展開されてきました。1969年に「同和対策事業特別措置法」が制定され、部落の環境改善や教育条件向上、就職の機会均等など、同和対策を特別施策として進めることとなり、地区指定され

なかつた地区など地域的な格差があるのも事実ですが、33年間の期間を経て住環境などは大きく改善されてきました。しかし、こうした経過を踏まえた今もお、差別事件は後を絶ちません。同和地区の出身であるという理由だけで、結婚や就職をはじめ様々なことで差別を受け、人権を不当に侵害されている人々がい

います。この様に、生活環境、あるいは教育、産業、労働などの実態にはまだまだ多くの課題が残されており、これらの状況を許している社会システム

が存在しているのです。また、現在は、放射線被ばくに関する風評被害による人権侵害も残念ながら発生しています。「放射線がうつる」などといった根拠のない噂や偏見等により、差別的な扱いを受け、小学生が避難先の小学校でいじめられるなどの事案があるのです。震災に遭った人が、避難先で差別を受けたら、どんな気持ちになるでしょう



▲熱心に聞き入る参加者の皆さん

取り組みを進めてきています。この社会に根深く残されている不合理や偏見を取り除くことを自らの課題としてあらためて捉え直し、私たち一人ひとりが何をすべきかを考え行動に移していくことが大切

私が島んちゅ(沖縄県民)のタクシー運転手や飲食店に聞いた話では、酔っ払いの米兵に暴力を振るわれ、会計を支払ってもらえず、さらに銃まで向けられたこともあり、ものすごく屈辱的だと語っていた。みんな恐怖に怯えながら米軍相手の商売をしている。なぜ?この国は沖縄に対してそれしか生活する方法を与えてこなかったからだ。この状況は未だ戦時下にあると言っても過言ではない。

私は35回目の5・15沖縄平和行進に参加し、米軍基地の即時撤去と沖縄県民の生活と雇用を守るため、声を大にしてシュプレヒコールを行ってくる。

(青年部 Y・N)

ひとこと

沖縄が日本に返還され今年で40年を迎える。返還?現状はどうだろうか。日本における米軍基地の75%を抱え、県面積の20%が米軍基地である沖縄。戦闘機による騒音妨害に日夜悩まされ、少女達は強姦の恐怖に怯えながらの生活。大和んちゅ(本土)の人たちは、沖縄県民は米軍基地があるから雇用や生活が成り立っていると平気で口にするが実際はどうなのか。